

## 気象コラム(12)

大阪労山のみなさま、このコラムも今回をもちまして終了となります。  
1年間おつきあいくださいまして、まことにありがとうございました。  
今回は、気象の書籍の紹介をしたいと思います。私もそんなに多くの読んだ訳ではありませんが、数少ない私が読んだ本の中からおすすめと思う本をとりあげました。  
少しでもみなさんの参考になれば幸いです。

### ①やさしい山のお天気教室 著者：栗澤徹 出版：柘出版社

西穂山荘の支配人であり気象予報士でもある栗澤徹氏が書かれた本です。栗澤氏は、2016年11月に開催された大阪労山創立50周年記念行事・大阪登山研究集会で、「山の観天望気」というテーマで非常に分かりやすい講演をしてくださいました。この本も栗澤氏の人柄がよく出ていて、分かりやすくやさしい解説がされています。これから山の気象のことを勉強したいと思っている人が最初に読む本として、おすすめの一冊です。

### ②山岳気象大全 著者：猪熊隆之 出版：山と溪谷社

ヤマテンの猪熊氏が書かれた本です。私の知る限りの山岳気象本として、最も優れた本のひとつと言えるでしょう。初心者向けの基本的なことから高層天気図の使い方まで、また季節ごと山域ごとの解説もされており、読みごたえがあります。少し厚い本なので、とっつきにくい人は興味のあるところから読み始めたり、知りたいことを調べてみるなど辞書的な使い方をすることもできる本だと思います。

### ③最新 天気図の読み方がよーくわかる本 著者：岩槻秀明 出版：秀和システム

今はインターネットでいろんな天気図を入手することができます。しかし、いろいろありすぎて、どの天気図からどのような情報を読み取ればいいのかのかわかりにくいと思います。この本は、いろんな専門天気図を解説し、どこをポイントとしてみればよいかを解説してくれています。ネット上のいろんな天気図を活用したい人におすすめです。

### ④一般気象学 著者：小倉義光 出版：東京大学出版会

大学ではじめて気象学を学ぶ人の教科書として書かれた本です。まず太陽系の話から始まり、大気の構造の話があり、地球が奇跡の星であることがわかります。私は読み始めて引き付けられましたし、そのあとも何度も読み返しました。大学の教科書なので数式が出てきたりしますが、難しいところは読み飛ばしてよいと思います。気象学の基礎をしっかりと勉強してみたいと思っている人におすすめします。

(高田和孝/H.C.teruru)